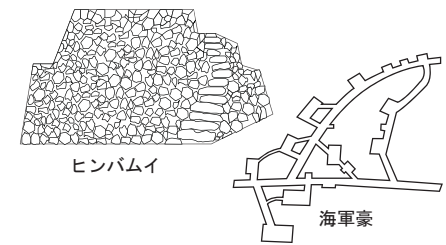
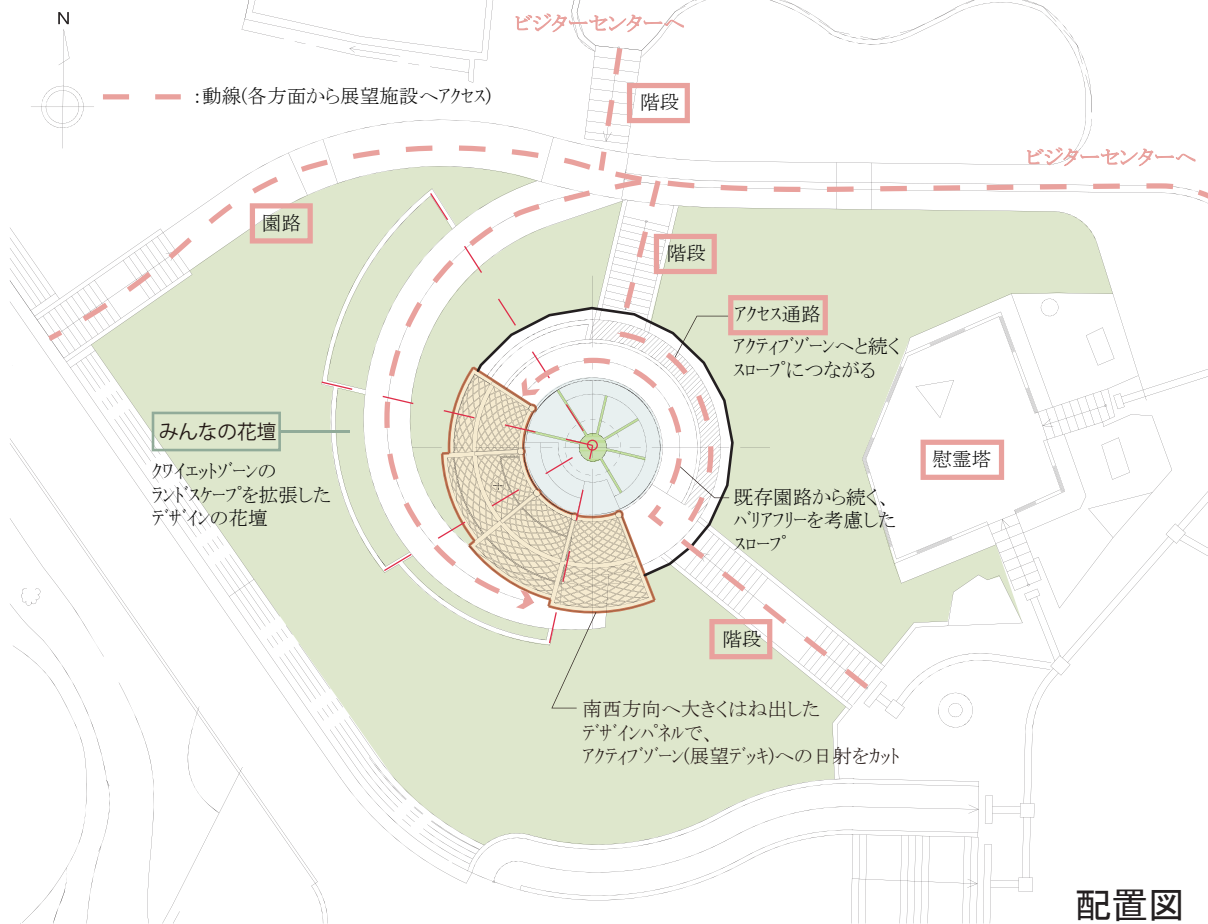


羽ばたく願い



本施設は、平和記念公園と同じく、戦跡・参拝がテーマとされている「海軍壕公園」の一角に立地している。首里王朝時代には中国や薩摩からの船の入港を知らせる「ヒンバムイ」があり、隣には、戦争の悲惨さを今に伝え、未来の平和を願うメモリアルな施設である「海軍壕公園ビジターセンター」や「慰霊塔」が置かれている。

また、本年は沖縄の本土復帰50周年ということもあり、沖縄の「過去・未来」を考える節目となっている。



配置図

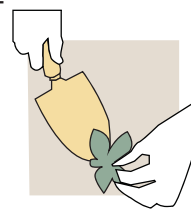
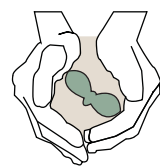


コンセプト

本施設は、公園を訪れた人々が景色を眺め、「戦争の過去を思い・未来の平和を願う場」として計画した。

屋根のデザインパターンは平和の象徴である、千羽鶴。キャンチスラブで床に浮遊感を持たせ、人々の平和の願いを乗せた千羽の鶴が、広い空・広い沖縄の街に羽ばたいていく。

みんなの花壇



ランドスケープ植栽ゾーンには、近隣の人々が思い思いの花を持ち込み、植えるようなワークショップイベントを提案し、近隣の人々もプロジェクトに参加してもらう。

人々からも長く愛される展望施設になるように計画した。

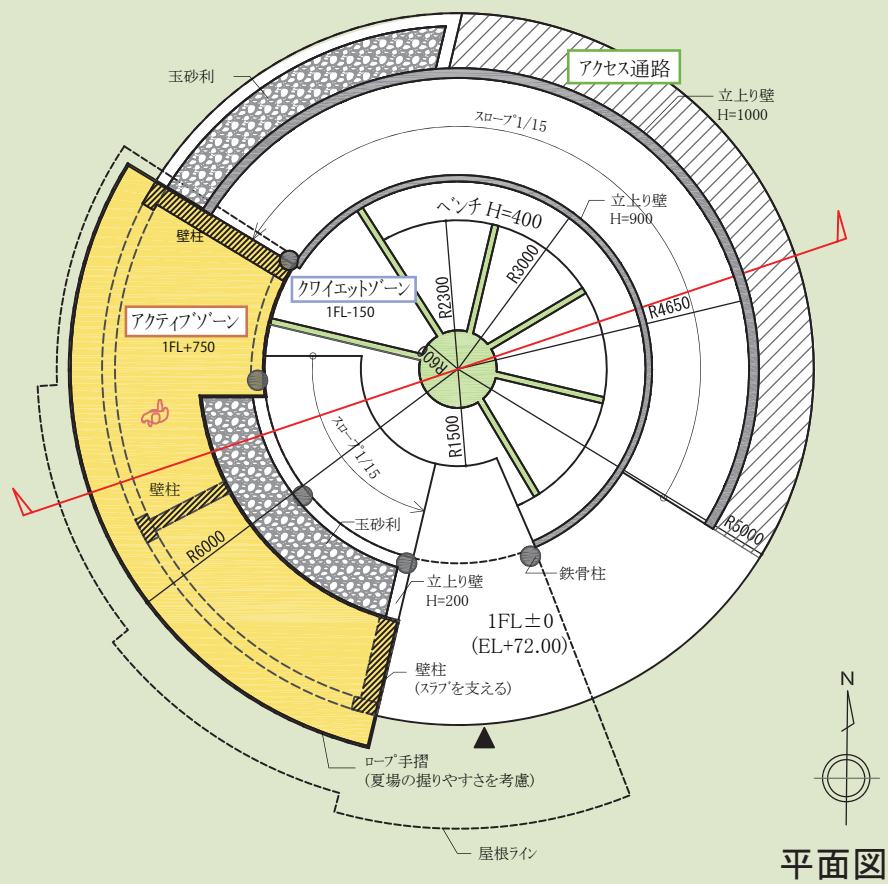
みんなの花壇イメージ



平面・断面計画

展望施設の平面形状を円形とし、「海軍壕公園ビジターセンター」等の戦跡施設や緑豊かな既存のランドスケープと調和するよう計画した。

アクティブゾーン(展望ゾーン)とクワイエットゾーン(休憩ゾーン)を平面的・断面的に分け、クワイエットゾーン(休憩ゾーン)では、「過去の戦争・人々のことを静かに思い」、アクティブゾーン(展望ゾーン)では、「未来の平和を願う」場所とした。



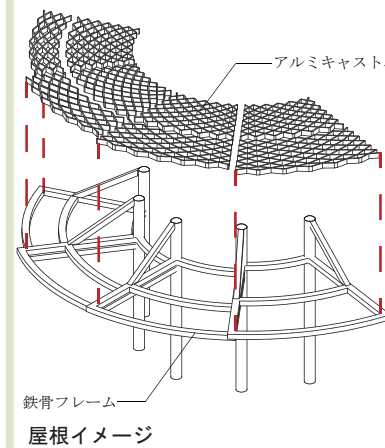
平面図

クワイエットゾーン(休憩ゾーン)では、「壕」・「ヒーバムイ」・「平和公園」のイメージでデザインし、壁は琉球石灰岩調、センターサークルは芝を張り、一段掘り下げ、重心が低く落ち着いて「過去を思う」ことができる場とした。

1段下がっているため、沖縄の青い空とともに、アクティブゾーンのデッキの隙間からランドスケープを眺めることができる

アクティブゾーン(展望ゾーン)では、高さに変化をつけ、空へ羽ばたく千羽鶴のデザイン屋根と、浮遊している展望デッキでリズムよく軽やかに、「明るい平和な未来を願う」ことができる場とした。

コスト・メンテナンス



屋根のデザインパネルは軽く・耐蝕性の高いアルミキャストパネルで制作し、強固なフレームで支えることで、安全性に配慮した。

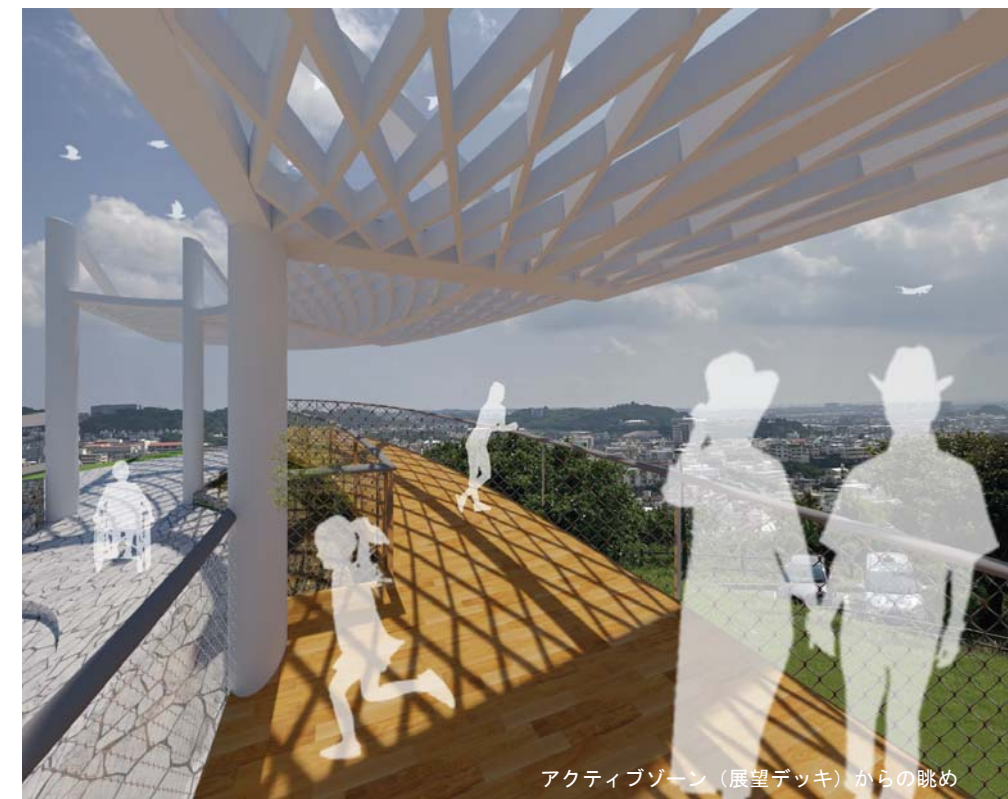
鉄骨フレームと同様に耐候性に優れ、長期間塗り替え不要なフッ素樹脂塗装を施し、ライフサイクルコストの削減をする床には、耐久性に優れ、メンテナンスも容易なスタンプコンクリートを採用。

壁は、耐久性・安全性に優れている特殊スチロール化粧型枠(栗石タイプ)を採用。

従来の躯体形成からの多種多様な工程を短縮し、コストを削減する計画とした。

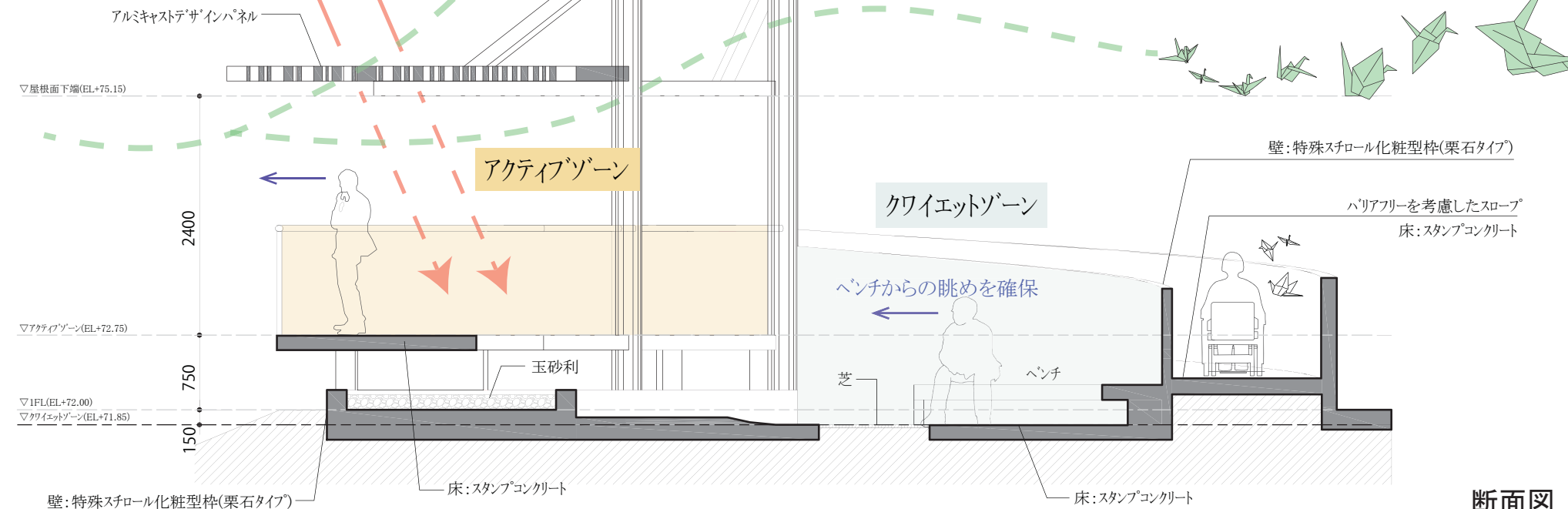


クワイエットゾーン(休憩ゾーン)からの眺め



アクティブゾーン(展望デッキ)からの眺め

アクティブゾーン(展望デッキ)
デザインパネルにより、日射をカット



断面図

建物概要

構造: RC造・一部鉄骨造

面積: 41.9㎡(屋根面積)

最高高さ: EL+77.00(1FL+5000mm)

仕上げ

床: スタンプコンクリート

壁: 特殊スチロール化粧型枠(栗石タイプ)

屋根: アルミキャスト+フッ素樹脂塗装

鉄骨柱・鉄骨フレーム: 溶融亜鉛メッキ+フッ素樹脂塗装

外構仕上げ

床: スタンプコンクリート

壁: 特殊スチロール化粧型枠(栗石)

